

主催: 日本医学ジャーナリスト協会 西日本支部

2026年度 新聞週間公開シンポジウム

水俣病 公式確認70年に考える

日時

10月18日(日)

13時~16時(開場: 12時30分)

開催
方法

ハイブリッド開催 (対面・オンライン全国配信)

会場

九州大学西新プラザ

福岡市早良区西新2-16-23 Tel.092-831-8104

1956年5月1日、水俣市初の総合病院、新日窒付属病院長が水俣保健所に原因不明の中枢神経系疾患4人発生を報告し、水俣病が公式確認されました。この70年間、対応の遅れなど、原因企業と患者、国・行政などの間で様々なことがあり、今なお「公害の原点」として、多くの問題を提起しています。今まさに、人類の過剰な活動の反作用としての気候変動、生態系の破壊が姿を現しています。今シンポジウムでは多くの視点・視座が提供され、鎮魂と反省と学びと決意の場となりますよう。ポリフォニックな議論で、過去・現況を見つめ、今後を展望します。

《主催者挨拶》**藤野博史**(日本医学ジャーナリスト協会理事・西日本支部長)

《司会》**中村 弥和**(日本医学ジャーナリスト協会西日本支部常任幹事)

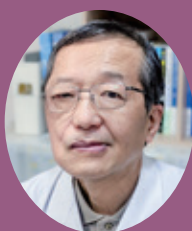
九州大学
西新プラザ
交通案内



第1部

講演 (1時間30分) 各45分

講演 1



医学界による、水俣病の 不作為と隠蔽の全貌

~その構造と、ジャーナリズムへの問い

高岡 滋 水俣協立クリニック院長

2024年、「水俣病と医学の責任——隠されてきたメチル水銀中毒症の真実」で第13回日本医学ジャーナリスト協会賞優秀賞受賞

講演 2



水俣を撮り続けて

吉崎 健

NHK福岡放送局ディレクター

35年にわたり水俣を取材。今年放送したETV特集「患者さんの痛み 写真家の葛藤」は、ギャラクシー月間賞、「地方の時代」映像祭・入賞

第2部

パネルディスカッション「水俣病公式確認70年に考える」

(75分)

コーディネーター



神戸 金史

長崎県立大学教授・映像ジャーナリズム論、前RKB毎日放送解説委員長、日本医学ジャーナリスト協会西日本支部副支部長

パネリスト



上野 真実子

発達支援ルーム「ここすてつ水俣」施設長
故川本輝夫氏の長女



石原 明子

熊本大学共創学環准教授
(紛争変容・平和構築学、医療政策)
水俣在住



市原 京子

医療医学翻訳家
水俣から渡米
ワシントンD.C.在住
(オンライン参加)

高岡 滋

吉崎 健

参加
お申込み

【募集定員】会場100人、オンライン定員100人 【参加費】会員1,000円、非会員2,000円

応募方法は
①②のいずれか

①右記QRコード、(peatix・申し込みフォーム) <https://sympo-minamata.peatix.com>
または、②名前・所属を書き、下記E-mailからお申込み下さい。
オンラインURLを開催前日までに連絡します(Zoomで配信)

peatix
申し込み
フォーム



ホームページ

お問い合わせ
お申し込みは

特定非営利活動法人

日本医学ジャーナリスト協会 西日本支部

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-2-6-303

E-mail ▶ **Mejawest@mejaw.jp**

Web ▶ <http://mejaw.jp>

電話 ▶ 090-3608-0399 (藤野支部長)